

千葉工業大学

卒業論文

ソーシャルワーカー業務支援システムの検討

2026 年 3 月

所属学科： 情報ネットワーク学科
学生番号・氏名： 2232123 番 畑野潤也
2232142 番 星野こよみ

指導教員：中村 直人 教授

目次

第 1 章	序論	1
1.1	背景	1
1.2	目的	1
1.3	本論文の構成	1
第 2 章	既存のアプリケーションと先行研究	2
2.1	先行研究	2
2.2	医療ソーシャルワーカー業務における問題点	2
2.3	提案するアプリケーション	2
第 3 章	アプリケーションの内容	3
3.1	システム概要	3
3.2	医療ケアへの意思・支援者の有無確認機能	3
3.3	結果の出力機能	3
第 4 章	実装と評価	4
4.1	実装	4
4.2	評価実験	4
4.3	考察	4
第 5 章	結論	5
	謝辞	6
	参考文献	7
	参考文献	7

図目次

3.1	画面遷移図	3
4.1	評価アンケートの結果	4

第 1 章

序論

1.1 背景

医療機関において、患者やその家族の抱える社会的・経済的・心理的な問題を解決し支える存在として医療ソーシャルワーカーというものがある [1]。患者の療養中に抱える育児や教育、就労や人間関係への不安を解決するだけでなく、万が一患者が亡くなった場合の家族へのサポートも業務に含まれる。また患者が転院する際には移る先の病院や介護施設の関係者と連絡を取り患者の援助を行う。退院の場合には患者の職場や学校と連絡をとることで患者の円滑な復職、復学を援助する。

その中でも病院内に常駐し、患者がどのような医療ケアを受けたいか、終末期に大切にしたいものは何か、また終末期の事務手続きや治療の際の付き添いなどをしてくれる支援者はいるのか、ということを病院内外のソーシャルワーカー同士や各関係者らと共有し、支援をする存在を院内ソーシャルワーカーと呼ぶ。患者やその家族にとって院内ソーシャルワーカーとは、療養中の日常と療養後の日常をつなげる存在と言える。

1.2 目的

従来では上記した患者の意思や支援者の確認は紙媒体で行われてきたが、その情報の共有や保管を紙面のみで行うことは困難だという問題を抱えている。また病院で勤務する医療ソーシャルワーカーとして地域市民の介護・福祉への意識を高めるための普及活動も行うが、実際に本人や家族が搬送されるまで医療ケアや周辺手続きについて話し合ったことがないケースも少なくないなど、未だ理解は十分に浸透していない。そこで本研究では、千葉県済生会習志野病院の協力のもと、データの管理・共有の利便性向上と、介護・福祉・医療及び死後事務に関する対話のきっかけを増やすことを目的として、現在習志野病院において実施されている意思・支援者有無確認作業をデジタル化するアプリケーションの開発を行う。また上記の二つの活動に利用するために、スマートフォンやタブレットからの情報を収集し、医療ソーシャルワーカー間での情報共有や、それを生かした地域分析を行う。

1.3 本論文の構成

本論文は以下の構成になっている。～～～

第 2 章

既存のアプリケーションと先行研究

2.1 先行研究

世の中にある「エンディングノートアプリ」や「電子カルテ」と本システムの違いについて。紹介程度にとどめる

2.2 医療ソーシャルワーカー業務における問題点

現在行われている「紙ベース」での意思確認・支援者確認フローの詳細と、その限界（検索性、共有速度など）を記述。個人情報に引っ掛かると情報の持ち出しが困難になるため引っかけないように？（共有しないとダメ）

2.3 提案するアプリケーション

Flutter: iOS/Android 両対応のために採用したフレームワークについて解説。Figma: UI/UX 設計に使用したツールについて解説。その他使用言語（Dart）や開発環境について。

第 3 章

アプリケーションの内容

3.1 システム概要

本アプリケーションでは医療ケアへの意思や終末期の支援者の有無を確認する機能と、その結果を用紙として出力し、画像や CSV ファイルとして保存し共有する機能の二つを持つ。

3.2 医療ケアへの意思・支援者の有無確認機能

3.3 結果の出力機能

図 3.1 画面遷移図

第 4 章

実装と評価

4.1 実装

4.2 評価実験

図 4.1 評価アンケートの結果

4.3 考察

第 5 章

結論

できた

謝辞

たくさんお世話になりました。ありがとうございました。卒業させてください

参考文献

- [1] JASWHS 公益社団法人 日本医療ソーシャルワーカー協会 <https://www.jaswhs.or.jp/#gsc.tab=0>
(2025.11.24 参照)